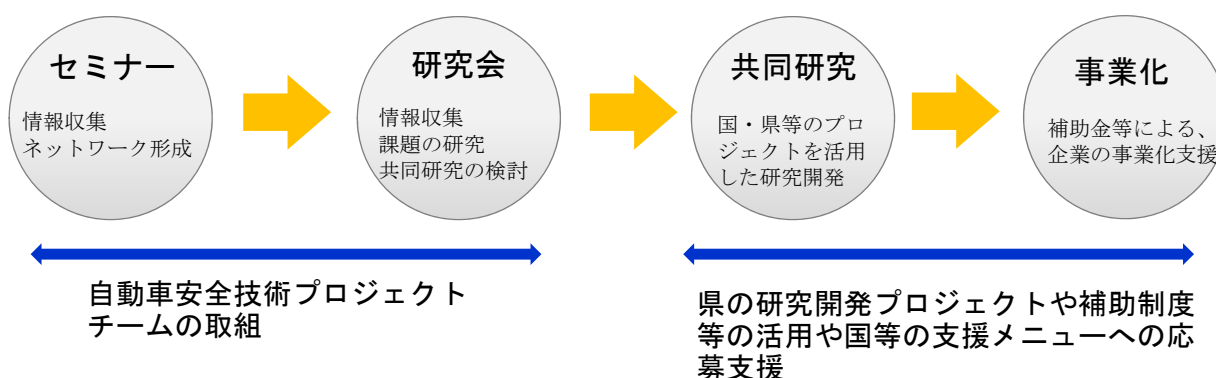


自動車安全技術開発支援事業について

1. 目的

近年、自動車メーカー等を中心に、自動車安全に寄与する製品の開発・販売が行われ市場が形成されつつあるが、中小企業や中堅企業の参入は一部にとどまっている。

こうしたことを踏まえ、中小企業等を対象に、自動車安全技術に係るセミナー及び研究会を開催することにより、自動車安全に寄与する製品開発の取組を促すとともに、研究者・技術者等のネットワーク形成を図ることにより、県内中小企業等による産学行政連携の研究開発や実用化へ結びつけていくなど、オールあいちでの研究開発の取組を促進していく。



2. これまでの取組（26～27年度）

（1）研究者情報のリスト化及び公表

県内大学で自動車安全技術や交通事故防止に関する研究を行っている研究者のリストを作成し、県の Web サイトで公開。（平成 27 年 3 月末：13 大学 64 名）

（2）セミナーの開催

自動車安全技術関連の県内大学の技術シーズや、製品化に成功している企業の事例等を紹介するセミナーを開催した。

項目	内容
開催回数	5 回（26 年度 3 回、27 年度 2 回）
参加者数	延べ 152 名（企業 96 名（うち中小 46 名）、大学 29 名、その他 27 名）
主な講演内容	名古屋大学 村瀬洋教授 「自動車運転支援のための歩行者等の周囲環境認識」 (株)デルタツーリング 「眠くなるのが数分前に分かる技術(製品事例)」等 10 件

（3）研究会の開催

これまでのセミナー参加者のネットワークなどを活用し、自動車安全技術に関する課題の検討、関連情報の収集及び共同研究開発の検討等を行うため、27 年度に 2 テーマの研究会を立ち上げ、各 2 回開催した。

【研究会概要】

研究会名	ドライバ状態モニタのための眼球運動解釈研究会
座長	平田豊 中部大学工学部教授
構成	6 大学、2 研究機関、7 企業 計 19 名
検討内容	運転中に生じる眼球運動とドライバ状態（低覚醒、不注意、道路状況誤認知等）の関係を明らかにし、眼球運動からドライバ状態を推定する技術について検討。

研究会名	道（未知）の安全・安心・管理技術開発研究会
座長	小栗宏次 愛知県立大学情報科学部教授
構成	2 大学、1 研究機関、9 企業 計 21 名
検討内容	世界で一番安全安心なモビリティ社会を構築するため、車両ではなく道路等を主眼に、最新の情報通信技術を駆使した安全・安心・管理技術について検討。

※ これらの研究会は、平成 28 年度に、産学行政連携の研究開発プロジェクト「知の拠点あいち重点研究プロジェクト（Ⅱ期）」における研究テーマに採択され、28 年度から 30 年度にかけて、同プロジェクトの下で、実用化・事業化に向け、産学連携による研究開発を推進。

【重点研究プロジェクトの研究テーマ概要】

研究テーマ	眼球運動を指標としたドライバ状態検知技術の実用化
参画機関	◎中部大学、○(株)東海理化電機製作所、東海光学(株)、(株)ナックイメージテクノロジー 他
狙い	居眠り運転防止による自動車事故低減
期待される成果	ドライバ状態検知・警告システム

両眼眼球運動実時間計測・評価システム



研究テーマ	交通事故低減のための安心安全管理技術の開発
参画機関	◎愛知県立大学、○(株)キクテック、(株)東海理化、AZAPA(株)、(株)エコシステムズ 他
狙い	交通事故低減及び道路情報産業創出
期待される成果	次世代路面標示、道路安全管理技術



※ ◎研究リーダー所属機関、○事業化リーダー所属機関

3. 28 年度の取組

(1) 研究者リストの更新

- ・ 県内大学の協力を得て、研究者情報を更新（28 年 7 月末現在：14 大学 81 名）

(2) セミナーの開催

- ・ 開催時期：28 年 11 月及び 29 年 1 月の 2 回を予定
- ・ 開催内容：県内大学等の自動車安全技術関連の技術シーズや企業の製品化事例

(3) 研究会の開催

- ・ 設置数：2 テーマの研究会を予定
- ・ テーマ選定：公募により実施
- ・ 公募時期：28 年 10～11 月
- ・ 開催時期：28 年 12 月及び 29 年 2 月の 2 回を予定